

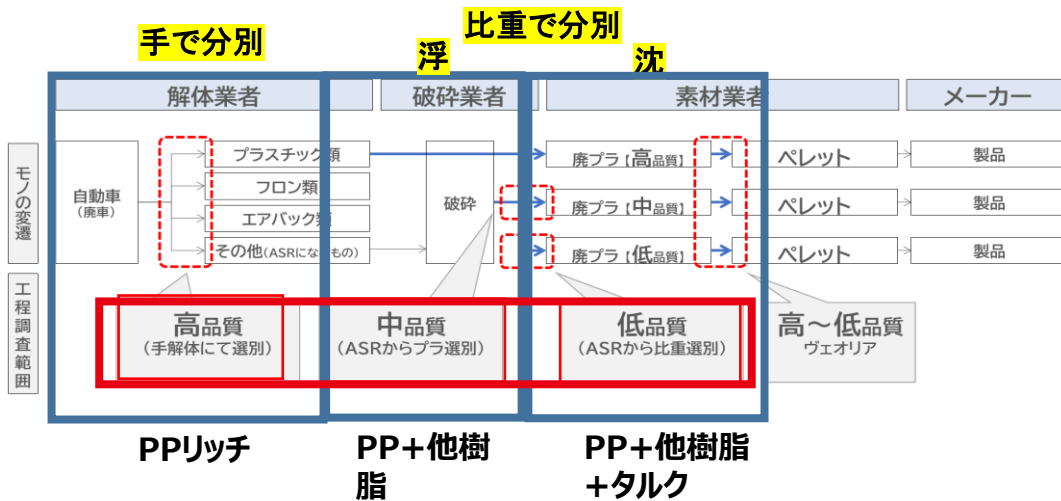
題名	ASR回収プラスチックのアップグレードリサイクル技術研究		
実施者	福岡大学	期間	2022/4~2023/3

22年度の取組と結果（事業化に向けた検証）

<FY22 目的>

21年までに量産性を確保した生産条件を適用し、適用可能なASRの品質を見極める。また、それに伴う有効活用・経済性を見極める。ASRを高・中・低品質をリサイクル解体・選別作業ごとに定義し、パラメーターの最適化を行ったうえで用途と事業性を見極める。

< ASR解体・選別工程とASR品質の定義 >



<課題>

- ・ASR受け入れ品質の見極め
- ・事業性評価（ASRアップグレードリサイクルが品質面で自動車に適用可能か）

<取組体制>

福岡大学工学部 機能・構造マテリアル研究所

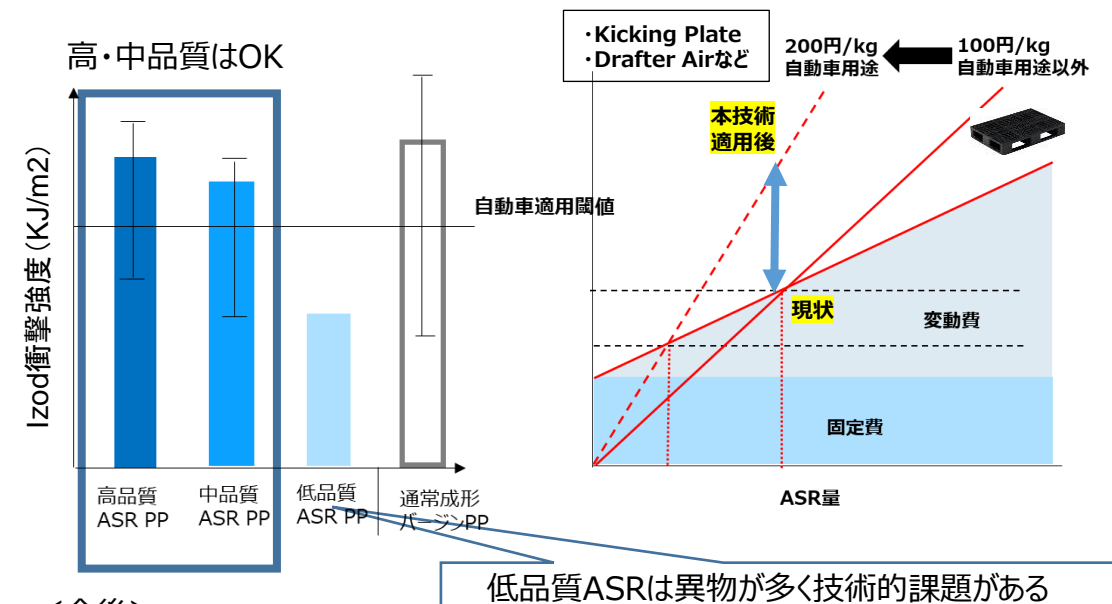
教授・所長 八尾 滋

日産自動車材料技術部 美藤 洋平・端野 直輝・森 直樹

22年度結果

<22年度結果>

- ・福岡大学の技術により、中品質ASRを自動車適用並みの物性にアップグレードできる事が示された。
- ・ASR品質は中程度まで受け入れ可能であり、コンパウンダーのヒアリング調査によると自動車用途であるとそれ以外の用途向けの販売価格の2倍で販売している。
- ・低品質ASRは異物が多く、物性はアップグレードできなかった。
- ・事業性はあるがASRの量の安定的な確保が必要である



<今後>

- ・本研究によりASR由来のPPが自動車用途として適用される可能性が示唆された。今後はコンパウンダーに樹脂だまりを導入することにより、自動車部品産業への市場参入の機会が増加すし、ASRの需要の増加が期待される。